

目次

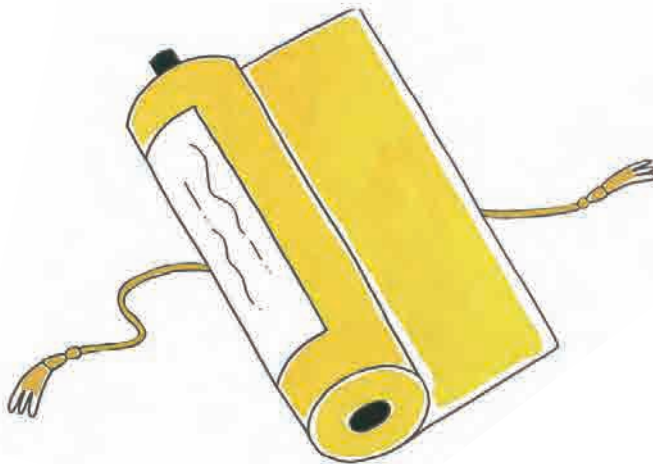
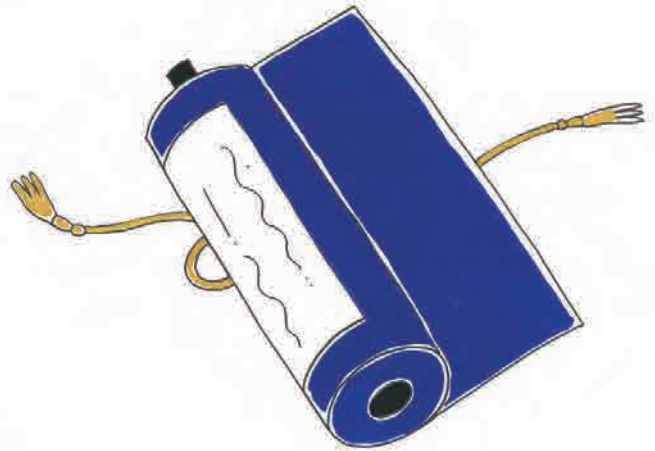
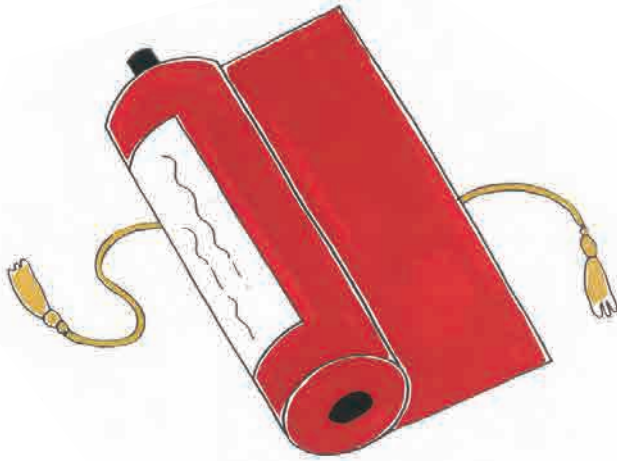
- 1 はじめのうた
- 2 季節のカード (草木編)
- 3 童謡 さくらさくら
- 4 早口ことば 赤巻紙 青巻紙 黄巻紙
- 5 今月の詩 朝の歌 中原中也
- 6 たし算 1の段
- 7 ことわざ 学問に王道なし 河童の川流れ 枯れ木も山の賑わい
勝ってかぶとの緒を締めよ かわいい子には旅をさせよ
- 8 かけ算 2の段
- 9 俳句 与謝蕪村 宝井其角 小林一茶
- 10 かぞえうた 1台 1本 1杯 (車、ろうそく、たこ)
- 11 なぞなぞ
- 12 手あそびうた のねずみ
- 13 今月のうた 旧石器時代～古墳時代
- 14 四字熟語 意気消沈 十人十色 暴飲暴食
- 15 イメージトレーニング クロス君 (第1話 はじまり)
(イメージしてみましよう)
- 16 おはなし 金のおの
- 17 漢詩 春夜
- 18 百人一首 大貳三位 菅家 大中臣能宣朝臣 壬生忠岑
- 19 復習コーナー
- 20 暗示 (静かなところで目を閉じて聞きましょう)

早口ことば

あかまきがみ
赤巻紙

あおまきがみ
青巻紙

きまきがみ
黄巻紙



あさ うた
朝の歌

なかはらちゅうや
中原中也

てんじょう あか
天上に 朱きいろいで
と すきま も い ひかり
戸の隙を 洩れ入る光、
ひな
鄙びたる 軍楽の憶ひ
て
手にてなす なにごともなし。

こ とり
小鳥らの うたはきこえず
そら きょう いろ
空は今日 はなだ色らし、
う ひと
倦んじてし 人のころを
いさ
諫めする なにものもなし。

じゅ し か あさ なや
樹脂の香に 朝は悩まし
う しなひし さまぎまのゆめ、
もり なみ かぜ な
森並は 風に鳴るかな

ひろごりて たひらかの空、
と て い
土手づたひ きえてゆくかな
うつくしき さまぎまの夢。



ことわざ

がくもん おうどう
学問に王道なし

がくもん
学問というものには、らくみにつけられるちかみち
楽に身につけられる近道はない。



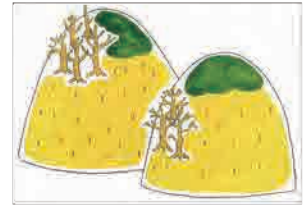
かっぱ かわなが
河童の川流れ

じょうず ひと しっぱい
どんなに上手な人でも失敗することがある。



か き やま にぎ
枯れ木も山の賑わい

か き やま
枯れ木でもないよりあるほうが山らしく見える。つま
らないものでもまったくないよりはましである。



か お し
勝ってかぶとの緒を締めよ

せいこう ゆだん
成功したからといって油断することなく、さらにきを
ひきしめるべきである。



こ たび
かわいい子には旅をさせよ

こ あま そだ よ なか くろう けいけん
子どもは甘やかして育てるより、世の中の苦労を経験
させる方がよい。



俳句

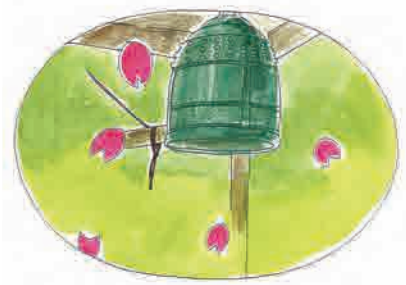
はる うみ
春の海 ひねもすのたり のたりかな

よ さ ぶ ぞん
与謝蕪村



かね う ひ
鐘ひとつ 売れぬ日はなし 江戸の春

たから い き かく
宝井其角



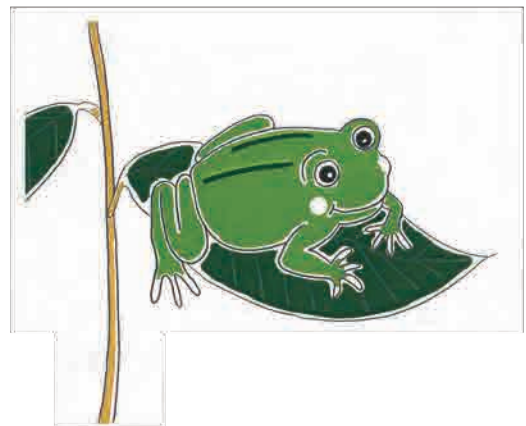
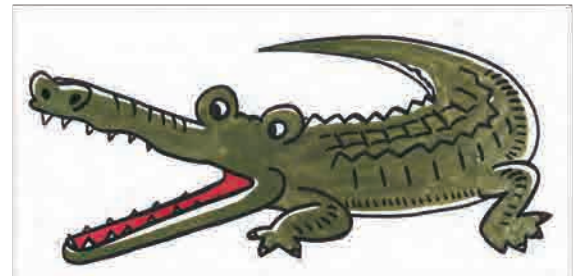
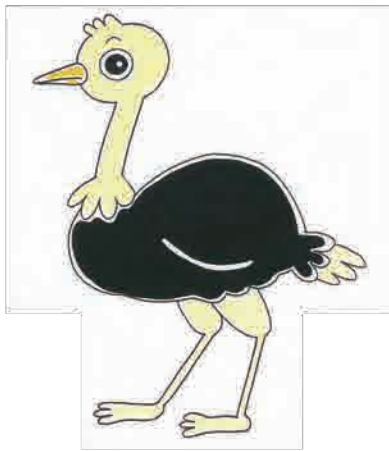
うらもん
裏門の ひとりでにあく ひなが
日永かな

こばやし いっ さ
小林一茶



なぞなぞ

- 1 鳥でも空を飛べないが、走るのが得意な鳥はなあに？
- 2 にわのはんたいがわにいる動物はなあに？
- 3 子もりばかりしている動物はなあに？
- 4 生まれたときは足がなく、次に2本足になり、最後に4本足になる動物はなあに？



《のねずみ》

① いっぴきの のねずみが



かた手をあげて、1本ゆびをだす

② あなぐらに あつまって



はんたいの手も、おなじようにだす

③ チュチュツチュチュチュチュチュツチュチュツと



りょう手をまえにだして、
4回あわせる

④ おおさわ



りょう手をあげて、くるくる
しながらおろす

⑤ ぎ



りょう手をうしろにする

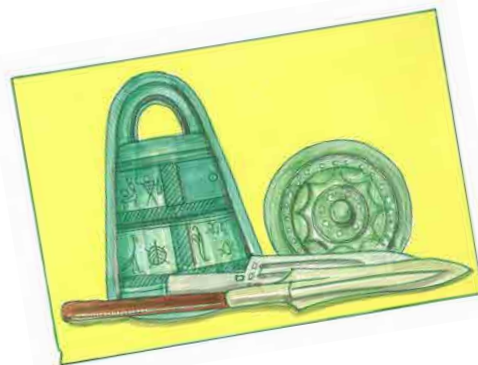
《旧石器 ～ 古墳時代》

日本のはじまりは旧石器時代
大陸からやってきた人々日本に住みついた
石でつくった打製石器

川や海のごみ捨て場のすぐそばに穴住居に住みついて
貝塚でできた縄文時代
縄目模様の縄文土器

大陸から米作りと金属器が伝わった弥生時代
部族が集まり各地に生まれた豪族
貧富と身分の差も生まれ小さな国ができました
高床式倉庫の弥生時代
うすくてかたい弥生土器

239年 邪馬台国の女王卑弥呼 魏に使いをおくる
もらった称号と金印
その後大和朝廷 あらわれた
大王が氏に姓をあたえる 氏姓制度



い きしょうちん
意気消沈

がっかりすること。



じゅうにんと いろ
十人十色

ひと ちが
人それぞれに違いがあること。

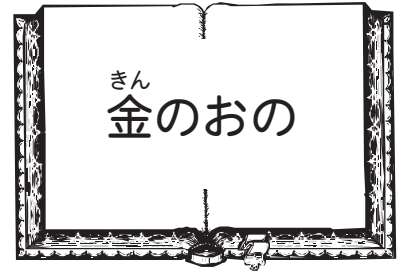


ほういん ほうしょく
暴飲暴食

と こ た の
度を超して食べたり飲んだりすること。

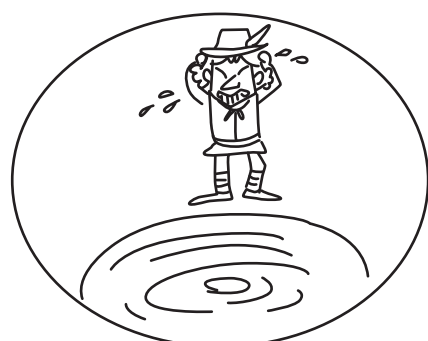


おはなし



「^{きん}金のおの」は、^{しょうじきもの}正直者のきこりの^{はなし}お話です。
^{はなし}お話を聞いた^{あと}後で、^{しつもん}質問にこたえてみましょう。

- 1 ^{しょうじきもの}正直者のきこりは、^{いけ}池に^{なに}何を^お落としましたか。
- 2 ^{みず}水の^{かみ}神様が、^{さいしょ}最初に^も持ってきたのは^{なん}何ですか。
- 3 それを見て、^{しょうじきもの}正直者のきこりは^{なん}何と言いましたか。
- 4 ^{となり}隣の家のきこりは、^{みず}水の^{かみ}神様が^{きん}金のおのを^も持って^{あらわ}現れたとき、^{なん}何と言いましたか。
- 5 ^{うそ}嘘をついた^{となり}隣のきこりは、^{どう}どうなりましたか。



春しゅん

夜や

蘇そ

軾しよく

鞦韆 <small>しゅうせん</small>	歌管 <small>かかん</small>	花 <small>はな</small> に	春宵 <small>しゅんしょう</small>
院 <small>いん</small>	楼台 <small>ろうだい</small>	清 <small>せい</small> 香 <small>こう</small>	一 <small>いつ</small> 刻 <small>こく</small>
落 <small>らく</small>	声 <small>こえ</small>	有 <small>あ</small> り	直 <small>あた</small> い
夜 <small>よる</small>	細 <small>さい</small> 細 <small>さい</small>	月 <small>つき</small> に	千 <small>せん</small> 金 <small>きん</small>
沈 <small>ちん</small> 沈 <small>ちん</small>	陰 <small>かげ</small>	有 <small>あ</small> り	

百人一首

有馬山ありまやま

猪名の笹原いのな ささはら

いでそよ人を風吹けば
忘れやはする

(大弐三位)

このたびは

幣もとりあへず
手向山

紅葉の錦もみじ にしき
神のまにまに

(菅家)

みかきもり

衛士のたく火の夜は燃え

昼は消えつつ
物をこそ思へ

(大中臣能宣朝臣)

有明の

つれなく見えし
別れより

暁ばかり
憂きものはなし

(壬生忠岑)



菅家